

“簿記離れ・会計離れ”の克服のために 『会計実務検定試験テキスト 財務諸表分析 [九訂版]』改訂の精神

筑波大学准教授 中村 亮介



「簿記離れ」ないし「会計離れ」が深刻化していると言われて久しい。

たとえば、日本簿記学会第28回全国大会(2012年)では、「簿記離れと簿記の可能性」と題して、教育現場での簿記離れや日商簿記検定の受験者数減少など、簿記に対するニーズが低下しているという問題が提起され、これにどう対処するかについて議論が交わされた。また、日本公認会計士協会が公表した「会計専門職人材調査に関する報告書」(2015年)では、公認会計士試験受験者が近年著しく減少しており、特に受験者の減少は、主として若年受験者(25歳未満)の減少によってもたらされていることを示した。

筆者の周りでも、会計のゼミを志望する学生が少なくなっているという声はよく聞く。先述の日本公認会計士協会の報告書においても、会計学の大学教員の協力を得て、個々の大学から個別にデータを収集した結果、多くの大学で会計学を専攻する学生の割合は低下しているそうである。

それでは、このような「簿記・会計離れ」の原因はどこにあるのであろうか。その1つとして、商業教育の形骸化があると考えられる。無論、筆者も商業教育の末端に身を置いており、以下は自戒も込めての提言となる。

文部科学省のホームページによると、「専門教科『商業』の現状と課題等について」(教育課程部会第3回産業教育専門部会配布資料, 2006年)の中で、「今後の商業教育においては、望ましい人間関係の形成や社会生活上のルールの習得などの社会性、社会の基本的なモラルなどの倫理観の育成に努めるとともに、各分野の学習においては、

マーケティング能力、国際交流能力、会計活用能力、情報活用能力という経済社会の変化に柔軟に対応できる能力の育成に重点を移す。(下線-筆者)」とある。

これに関して、この方針に依拠するならば、会計学分野に絞ると、現在の資産負債アプローチに則った財務指標にアップデートしていく必要があるだろう。しかし、高校の教科書として指定されている『高校財務会計Ⅰ』『新財務会計Ⅰ』に記載の財務指標のうちいくつかは、いまだに収益費用アプローチに則った指標である。たとえば、「自己資本利益率」(ROE)という指標が掲げられているが、資産負債アプローチに会計が変わった今日では、「自己資本」という概念は理論上なくなっている(東証・大証などを含む日本取引所グループのホームページを見ると依然として使われているが…)。

また、この傾向は市販の財務諸表分析のテキストでも見て取れる。一例を挙げると、「総資産当期純利益率」(ROA)の分子を「当期純利益」としているが、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(2014年)では、連結損益計算書のボトムラインが変更され、これまで「当期純利益」と表示されていた項目は「親会社株主に帰属する当期純利益」に変わった。それでは、ROAの分子としてはどの利益が適切か?これについて、多くのテキストでは理論的な考察が行われていない。

このように、旧態依然とした指導要領および教育体制が「簿記・会計離れ」を引き起こしていると考えられる。

一方で、刻々と移り変わる経済環境および会計基準への対応を図っているのが、『会計実務検定試験テキスト 財務諸表分析』である。本テキストは、複数の著者によって毎年改訂作業が行われており、資産負債アプローチによる財務諸表分析の指標を提示している。

今回の九訂版では、指標の説明の際に用いている例(㈱ヤマダ電機)をアップデートしたことはもちろん、2018年2月現在のすべての会計基準の改定を取り入れている。

加えて、日本基準以外の財務諸表についても触れている。近年では、いくつかの大企業が国際会計基準(IFRS)や米国会計基準(US-GAAP)を採用している。その企業数こそ多くないが、特にIFRSを採用している上場企業の時価総額を合わせると、日本の全上場企業の時価総額の約23%にのぼる(金融庁「国際会計基準をめぐる最近の状況」2017年2月14日公表)。そして、これらの会計基準と日本基準とでは、財務諸表の表示が異なる(たとえば、IFRSおよびUS-GAAPでは経常利益が表示されていない)。そこで、本改訂でIFRSに準拠して作成されている財務諸表の例(本田技研工業㈱)もアップデートし、その様式を紹介した。

さらに、テキスト第4部「財務諸表分析の実際」の企業間比較および時系列比較において、本改訂から「商人の眼」「投資家の眼」という注釈を導入した。そこでは、財務指標の背景にある企業の経営姿勢などについて、洗練された商人および投資家ならばチェックすべきであろう点に言及

している(下図を参照)。

テキストでは、㈱王将フードサービスと㈱サイゼリヤを比較しているが、たとえば棚卸資産回転率について、本文では主に指標の計算結果に基づき、いずれの会社・期が優れているのかについて言及している。一方、「商人の眼」では、王将は原材料及び貯蔵品が大きいのに対し、サイゼリヤは商品および製品が多いことを説明したうえで、「今度、サイゼリヤに行ったら、どんな商品や製品が並んでいるかみてみよう」と、数字を離れて、生徒・学生に対して興味を引くように工夫した。

この試みは、財務指標を計算させるだけではなく、結果として算出された値を解釈し、意思決定に生かせることをゴールとする、全商会計実務検定試験財務諸表分析のコンセプト(新田忠誓「全商 会計実務検定試験『財務会計論』『財務諸表分析』導入の狙い」『じっしゅう商業教育資料』No.79, 2008年)に基づいたものである。本テキストの執筆者の1人である筆者としては、生徒・学生が「指標の計算だけであればよい」という意識に陥らないよう、この注釈が財務諸表分析に関心をもつきっかけとなればと願うばかりである。

このように、最新の状態に保つことによって、本テキストは検定教科書と異なり、文部科学省の言う「経済社会の変化に柔軟に対応できる能力の育成」を実現できると考えている。「簿記・会計離れ」を克服するために、商業教育に携わる方であれば、本テキストのような「経済社会の変化」に対応した教材をベースにティーチングをしていただきたい。

「全商会計実務検定試験テキスト 財務諸表分析 九訂版」p75,79

◆ノ. 棚卸資産回転率(売上高対棚卸資産)

サイゼリヤ：

$$\frac{125,618(\text{売上高})}{(5,515(\text{期首棚卸資産})+6,122(\text{期末棚卸資産}))\div 2} = 21.6 \text{ 回}$$

王将：

$$\frac{75,820}{(352+376)\div 2} = 208.3 \text{ 回}$$

棚卸資産回転率も王将の方がサイゼリヤよりも高い。☞このことは、商品・製品の販売効率についても王将の方がよいことを示している。

◆モ. 株価収益率

サイゼリヤ：

$$\frac{1,421 \text{ 円(株価)}}{23.7 \text{ 円(1株当たり当期純利益)}} = 60.0 \text{ 倍}$$

王将：

$$\frac{4,285 \text{ 円}}{187.5 \text{ 円}} = 22.9 \text{ 倍}$$

この比率により、今、株式を購入するかどうか判断される。株価純資産倍率(メ.)と異なり、サイゼリヤの方が割高と判断される。☞これは、仕入業務などにお

☞ 商人の眼

サイゼリヤの棚卸資産の中味は商品及び製品が大きいのに対し、王将は原材料及び貯蔵品が大きい。ここにも両社の販売政策の違いが見てとれる。今度、サイゼリヤに行ったら、どんな商品や製品が並んでいるかみてみよう。

☞ 投資家の眼

この理由として、株価と比べ、サイゼリヤの当期純利益が低いことに注意すべきであり、利益の構成要素にも注意すべきである。